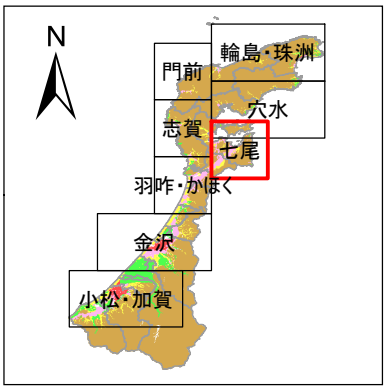
七尾地域

液状化しやすさマップ

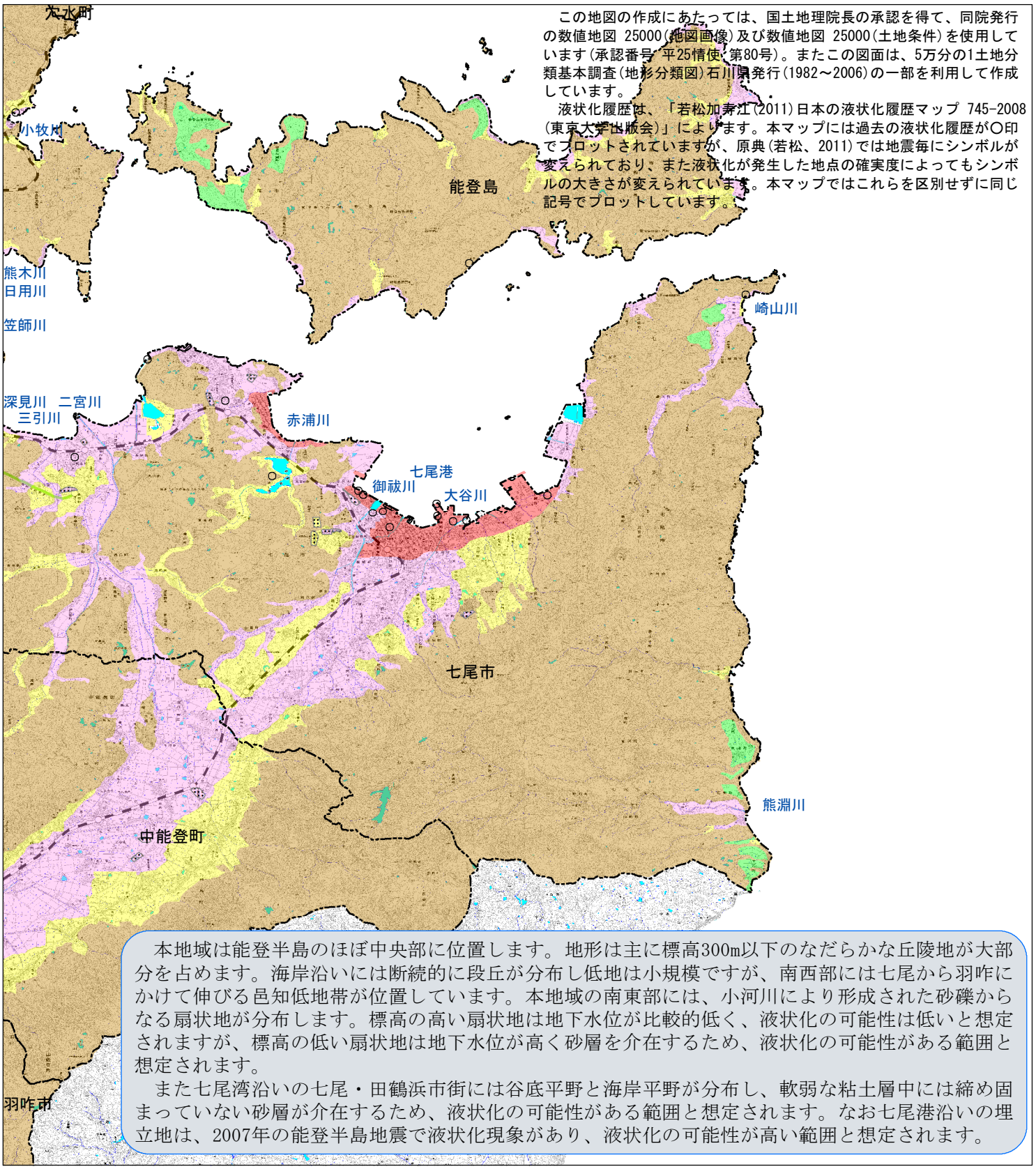
液状化履歴範囲
液状化履歴地点
液状化危険度
危険度 4
危険度 3
危険度 2
危険度 1
危険度 0
最近の盛土造成地



0 1.25 2.5 5 km

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図)石川県発行(1982～2006)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。



本地域は能登半島のほぼ中央部に位置します。地形は主に標高300m以下のなだらかな丘陵地が大部分を占めます。海岸沿いには断続的に段丘が分布し低地は小規模ですが、南西部には七尾から羽咋にかけて伸びる邑知低地帯が位置しています。本地域の南東部には、小河川により形成された砂礫からなる扇状地が分布します。標高の高い扇状地は地下水位が比較的低く、液状化の可能性は低いと想定されますが、標高の低い扇状地は地下水位が高く砂層を介在するため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。

また七尾湾沿いの七尾・田鶴浜市街には谷底平野と海岸平野が分布し、軟弱な粘土層中には締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性がある範囲と想定されます。なお七尾港沿いの埋立地は、2007年の能登半島地震で液状化現象があり、液状化の可能性が高い範囲と想定されます。